

6月の植物

ハマボツス (サクラソウ科)

学名 : *Lysimachia mauritiana* Lam.

ハマボツスは海岸に生育する植物で、佐賀県内では有明海側でも玄界側でも見られます。初夏の日差しの下、小さな白い花（直径 1~1.2cm）が集まって咲く様子はとても可愛らしく、見つけるとうれしくなります。花の時期は5~6月です。

5月中旬、田古里川河口付近（太良町大浦）では海に向かって並ぶように群生し、たくさんの花をつけていました。赤色を帯びた茎が特徴的で根元から枝分かれして立ち上がり、大きな株をつくっていました。葉は海辺の植物らしく厚みとつやがあります。

2017年9月の同生育地（写真4）では、ほとんど果実（直径4~6mm）となり、熟した実の先端には種子を散布するための穴が開いています。種子を落としたハマボツスの株は枯れていきます。

2020年6月の写真も同じ場所ですが、この日は大潮の頃で海水が近くまでできていました（写真5）。今年はハマボツスの種子がどのように定着していくのか、花の後も観察してみたいと思っています。

（文・写真：松田 朋子）



写真 1,2,3 (2024.5.16)

写真 4 (2017.9.16)

写真 5 (2020.6.7)

【参考文献】日本の野生植物 4（大橋広好/編・平凡社・2017）、新訂・図解植物観察事典（地人書館・1993）